



先輩の立ち振る舞いを見て学ぶ

選手と感動を分かち合う

市野球協会 審判員

佐藤 優衣さん(29・愛甲東)

中学生や社会人の野球の試合で審判を務めて2年になります。会社員として働きながら、週末はグラウンドで選手たちの一挙手一投足に目を光らせています。

野球は未経験でしたが、転機が訪れたのは会社のチームを応援していた時。審判員から声を褒められたことがきっかけでした。勧められて見学した試合では、選手や観客と一緒に審判が野球を楽しんでいる姿に心を引かれました。「この輪に入りたい」。強い思いを持って野球の世界に飛び込みました。

講習会への参加や教本を用いて基本的なルールから学びました。1カ月後に三塁審判として球場に立った時、目の前を通る打球や迫力ある

熱気人

あつぎびと

プレーに緊張したのを覚えています。野球には多くのルールがあり、プレーもさまざまです。毎週、試合の内容をノートに書き留め、振り返りに努めています。審判の不安な表情は球場全体に伝わります。判断が難しい場合もありますが、笑顔で堂々とした姿勢を常に心掛けています。

選手たちの頑張りや喜ぶ姿を、間近で見られるのがやりがいです。「あの人がいると試合が楽しくなる」と誰からも信頼してもらえる審判を目指しジャッジに磨きをかけたいです。



丁寧な判定を心掛ける